

平成24年6月8日

## 株 主 各 位

群馬県桐生市広沢町三丁目4025番地

### 株式会社 両毛システムズ

代表取締役社長 秋 山 力

#### 第43回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて当社第43回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席下さいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面により議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の「株主総会参考書類」をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成24年6月25日（月曜日）午後5時30分までに当社に到着するようご返送下さいますようお願い申し上げます。

敬 具

#### 記

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 1. 日 時          | 平成24年6月26日（火曜日）午前10時   |
| 2. 場 所          | 群馬県桐生市広沢町三丁目4025番地<br>当社 1階プレゼンテーションルーム  |
| 3. 目的事項<br>報告事項 | 1. 第43期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件<br>2. 第43期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）計算書類報告の件 |
| 決議事項            |  |
| 第1号議案           | 取締役5名選任の件  |
| 第2号議案           | 補欠監査役2名選任の件  |

以 上

◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出下さいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類並びに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.ryomo.co.jp/>）に掲載させていただきます。

◎当社は、法令及び当社定款第14条の規定に基づき、提供すべき書面のうち次に掲げる事項をインターネット上の当社ウェブサイト（<http://www.ryomo.co.jp/>）に掲載しておりますので、本株主総会招集ご通知の提供書面には記載しておりません。

- ・連結計算書類の連結注記表
- ・計算書類の個別注記表

## (提供書面)

# 事業報告

(平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 当事業年度の事業の状況

#### ① 事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により一時的に停滞が見られたものの、復旧・復興需要もあり緩やかに持ち直す傾向にあると見受けられます。しかしながら、欧州債務危機の影響や原油価格の上昇など、海外の景気の下振れ等による先行きの不透明感が懸念されます。

情報サービス産業においては、アウトソーシングなど一部では活発な動きが見られるものの、企業のソフトウェア投資意欲が回復するまでには至らず、全般的には抑制傾向が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、公共、水道、文教、ガス、流通、製造、医療の各ビジネスにおいて受注の拡大に取り組んでまいりました。印刷業向けWeb版MIS（見積／販売／工程・生産管理／在庫／原価／経理までをカバーするパッケージシステム）「Printact」は好調に推移いたしました。公共事業においては、プロジェクトの稼働延期による受注損失引当金の計上、また、G. Be\_Uの導入による一時的な費用が増加いたしました。また、ソフトウェア資産の評価減による特別損失として2,055百万円、法人税等調整額として△1,049百万円計上いたしました。

この結果、通期の売上高は9,669百万円（前期は9,699百万円）、営業損失は634百万円（前期は170百万円の営業利益）、経常損失は625百万円（前期は219百万円の経常利益）、当期純損失は1,668百万円（前期は74百万円の当期純利益）となりました。

次にセグメントごとの状況をご報告いたします。

#### 〔公共事業セグメント〕

公共事業セグメントでは、主に導入支援サービスやソフトウェアプロダクト販売、アウトソーシングサービスが堅調に推移いたしました。主に受託計算サービスの減少及び採算割れプロジェクトの発生等により、売上高は4,963百万円（前期は5,313百万円）、セグメント損失は241百万円（前

期は853百万円のセグメント利益) となりました。

#### 【民間事業セグメント】

民間事業セグメントでは、コンサルティングサービスやデータセンターを利用した運用サービス及びソフトウェア製品開発等が好調に推移したことにより、売上高は4,705百万円(前期は4,386百万円)、セグメント利益は423百万円(前期は318百万円)となりました。

なお、当連結会計年度より、当社子会社である(株)両毛データセンターについて、重要性が増したため連結の範囲に含めております。

#### ② 設備投資の状況

当連結会計年度中に実施いたしました設備投資の総額は159百万円であり、その主なものは受電設備改修工事、ホストコンピューター用高速プリンタ等であります。

#### ③ 資金調達の状況

当連結会計年度中に、運転資金として、金融機関より長期借入金1,000百万円の調達を実施いたしました。

#### ④ 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

該当事項はありません。

#### ⑤ 他の会社の事業の譲受けの状況

該当事項はありません。

#### ⑥ 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

該当事項はありません。

#### ⑦ 他の会社の株式その他の持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況

該当事項はありません。

## (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

### ① 企業集団の財産及び損益の状況

区 分	第40期 (平成21年3月期)	第41期 (平成22年3月期)	第42期 (平成23年3月期)	第43期 (当連結会計年度) (平成24年3月期)
売 上 高 (千円)	9,431,408	10,145,565	9,699,915	9,669,178
経 常 利 益 (千円)	259,661	324,839	219,660	△625,329
当 期 純 利 益 (千円)	120,884	220,495	74,177	△1,668,829
1株当たり当期純利益	34円54銭	63円02銭	21円20銭	△476円95銭
総 資 産 (千円)	9,410,934	10,385,816	10,256,610	9,756,502
純 資 産 (千円)	7,438,135	7,625,229	7,609,568	5,943,277

### ② 当社の財産及び損益の状況

区 分	第40期 (平成21年3月期)	第41期 (平成22年3月期)	第42期 (平成23年3月期)	第43期 (当事業年度) (平成24年3月期)
売 上 高 (千円)	8,973,925	9,497,931	9,017,951	8,857,328
経 常 利 益 (千円)	246,009	305,315	212,838	△631,936
当 期 純 利 益 (千円)	106,165	216,207	75,213	△1,677,153
1株当たり当期純利益	30円33銭	61円79銭	21円50銭	△479円33銭
総 資 産 (千円)	9,242,575	10,200,523	10,096,559	9,370,760
純 資 産 (千円)	7,335,466	7,527,910	7,513,825	5,792,737

### (3) 重要な親会社及び子会社の状況

#### ① 親会社との関係

##### 親会社の状況

会社名	資本金	当社への議決権比率	主な事業内容
(株) ミツバ	百万円 9,885	% 51.3	自動車部品並びに用品の製造販売、 小型電気機器の製造販売

##### 親会社との関係

1. ソフトウェア開発・システム販売等を行っております。
2. 当社所有の建物を賃貸しております。
3. 建物及び土地を賃借しております。
4. 役員の兼任はあります。

#### ② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主な事業内容
(株) 両毛ビジネスサポート	百万円 30	% 60.0	ソフトウェアのヘルプデスクサポート及びビジネスプロセスのアウトソーシング
(株) 両毛データセンター	80	100.0	コンピュータによる受託計算処理サービス

### (4) 対処すべき課題

- ① 競争力の高いビジネスモデルの創造と、それを実現するコア商品の開発
- ② 営業力の革新的向上
- ③ 人材の開発及び確保、積極的な活用
- ④ マネジメントとコミュニケーションのレベル向上によるチーム生産性の大幅な向上
- ⑤ 開発プロセスの標準化
- ⑥ 品質の向上
- ⑦ 管理間接業務の革新的な生産性向上

(5) 主要な事業内容（平成24年3月31日現在）

- ① ソフトウェア開発・システム販売
- ② 情報処理サービス
- ③ システム機器・プロダクト関連販売
- ④ その他の情報サービス

(6) 主要な営業所（平成24年3月31日現在）

- ① 当社  
本社（群馬県）、東京営業所、宇都宮営業所、高崎営業所、中部営業所
- ② 連結子会社  
㈱両毛ビジネスサポート（群馬県）  
㈱両毛データセンター（群馬県）

(7) 使用人の状況（平成24年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

使用人数	前連結会計年度末比増減
850人	10人（増）

② 当社の使用人の状況

区分	使用人数	前事業年度末比増減	平均年齢	平均勤続年数
	人	人	歳	年
男性	472	28（減）	39.7	14.9
女性	135	9（減）	37.3	11.9
合計又は平均	607	37（減）	39.1	14.2

(8) 主要な借入先の状況（平成24年3月31日現在）

借入先	借入額
	千円
㈱ 横 浜 銀 行	500,000
㈱ 群 馬 銀 行	300,000
㈱ 足 利 銀 行	200,000

(9) その他企業集団の現況に関する重要な事項

特記すべき事項はありません。

## 2. 株式の状況（平成24年3月31日現在）

- (1) 発行可能株式総数 8,000,000株  
(2) 発行済株式の総数 3,510,000株  
(3) 株主数 595名（前事業年度末比 23名減）  
(4) 大株主（上位10位）

株主名	持株数	持株比率
	千株	%
(株) ミ ツ バ	1,795	51.3
(株) 横 浜 銀 行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))	173	4.9
両毛システムズ従業員持株会	91	2.6
(株) みずほコーポレート銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))	65	1.8
セコム損害保険(株)	65	1.8
(有) サンフィールド・インダストリー	59	1.6
三菱UFJ信託銀行(株) (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行(株))	56	1.6
日 野 昇	45	1.2
桐 生 瓦 斯 (株)	40	1.1
(株) 柳 栄 精 工	40	1.1

(注) 持株比率は自己株式（11,035株）を控除して計算しております。

## 3. 新株予約権等の状況

該当事項はありません。

## 4. 会社役員の状況

### (1) 取締役及び監査役の状況（平成24年3月31日現在）

会社における地位	氏名	担当及び重要な兼職の状況
取締役会長	日野昇	㈱ミツバ代表取締役会長
代表取締役社長	秋山力	管理機能統括、管理統括部・コンプライアンス担当 ㈱両毛ビジネスサポート取締役 ㈱両毛データセンター取締役
取締役	瀬田敏博	公共事業部担当、技術統括（ITサービス事業部） ㈱両毛データセンター取締役
取締役	河野彰	水道事業部・ガス事業部・文教事業部・流通事業部・製造事業部・医療事業部担当、営業拠点統括、組込事業部長 ㈱両毛ビジネスサポート取締役 ㈱サンフィールド・インターネット取締役
取締役	立木留吉	水道事業部長 ㈱両毛ビジネスサポート代表取締役社長
取締役	荻野研司	公共事業部長
取締役	北澤直来	ガス事業部長 ファイブ・スター・ソリューションズ・ベトナム・リミテッド代表取締役会長 ㈱両毛データセンター取締役
取締役	阿久戸庸夫	㈱ミツバ代表取締役社長
常勤監査役	金井孝一	
監査役	星野陽司	星野物産㈱代表取締役社長
監査役	関子田誠	㈱アムズ代表取締役社長

- (注) 1. 平成23年6月23日開催の第42回定時株主総会において、上記の取締役8名及び監査役2名が選任され、就任いたしました。
2. 取締役阿久戸庸夫氏は、社外取締役であります。
3. 監査役星野陽司、関子田 誠の両氏は、社外監査役であります。なお、当社は、両氏を株式会社大阪証券取引所の定めに基づく、独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。



### (2) 事業年度中に退任した取締役及び監査役

氏名	退任日	退任事由	退任時の地位・担当及び重要な兼職の状況等
田代一郎	平成23年6月23日	任期満了	代表取締役社長
尾花省悟	平成23年6月23日	任期満了	常勤監査役
佐藤富三	平成23年6月23日	任期満了	監査役

### (3) 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

区分	支給人員	支給額
取締役 (うち社外取締役)	6名 (-)	29,611千円 (-)
監査役 (うち社外監査役)	5 (3)	16,447 (4,800)
合計	11	46,058

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 取締役の報酬限度額は、平成13年6月27日開催の第32回定時株主総会において年額150百万円以内と決議いただいております。
3. 監査役の報酬限度額は、平成13年6月27日開催の第32回定時株主総会において年額40百万円以内と決議いただいております。
4. 当事業年度末現在の取締役は8名（うち社外取締役は1名）、監査役は3名（うち社外監査役は2名）であります。上記の取締役及び監査役の員数と相違しておりますのは、平成23年6月23日開催の第42回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名及び監査役2名が含まれていることと、無報酬の取締役が3名（うち社外取締役1名）在任しているためであります。
5. 上記のほか、社外役員が当社親会社又は当該親会社の子会社から受けた役員としての報酬等の総額は、38,205千円であります。
6. 上記のほか、平成20年6月26日開催の第39回定時株主総会決議に基づき、当事業年度中に退任した役員に対し役員退職慰労金を以下のとおり支給しております。
- ・退任監査役1名 2,000千円

#### (4) 社外役員に関する事項

① 他の法人等の重要な兼職の状況及び当社と当該他の法人等との関係

- ・取締役阿久戸庸夫氏は、当社の親会社(株)ミツバの代表取締役社長であります。当社は(株)ミツバとの間にソフトウェア開発・システム販売等の取引関係があります。
- ・監査役星野陽司氏は、星野物産(株)の代表取締役社長であります。当社は星野物産(株)との間には特別の関係はありません。
- ・監査役関子田 誠氏は、(株)アムズの代表取締役社長であります。当社は(株)アムズとの間にソフトウェア開発・システム販売等の取引関係があります。

② 当事業年度における主な活動状況

- ・取締役会及び監査役会への出席状況

	取締役会（12回開催）		監査役会（8回開催）	
	出席回数	出席率	出席回数	出席率
取締役阿久戸庸夫	10回	83.3%	—	—
監査役星野陽司	11回	91.6%	8回	100.0%
監査役関子田 誠	10回	83.3%	7回	87.5%

- ・取締役会及び監査役会における発言状況

取締役阿久戸庸夫氏は、親会社の立場から取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

監査役星野陽司、関子田 誠の両氏は、豊富な経験と見識から取締役会及び監査役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行っております。

③ 責任限定契約の内容の概要

当社と各社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、監査役星野陽司、関子田誠の両氏は法令が定める最低責任限度額としております。

## 5. 会計監査人の状況

(1) 名称 新宿監査法人

(2) 報酬等の額

	支払額
当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額	17百万円
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額	17百万円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

(3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

(4) 会計監査人の解任又は不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められる場合、監査役全員の同意により解任いたします。

取締役会は、上記の場合のほか、会計監査人の適格性、独立性を害する事由の発生により、適正な監査の遂行が困難であると認められる場合、監査役会の同意を得て、又は監査役会の請求により、会計監査人の解任又は不再任を株主総会に提案いたします。

(5) 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

## 6. 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制、その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

- (1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - ① コンプライアンスを統括する執行役員を任命し、全社横断的なコンプライアンス体制の整備及び問題点の把握に努める。また、各業務部門固有のコンプライアンスリスクを分析し、その対策を具体化する。
  - ② 法令上疑義のある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段としてホットラインを設置・運営する。
- (2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
  - ① 管理部門担当取締役は、文書管理規程を改定し、次の各号に定める文書（電磁的記録を含むものとする。以下、同じ）を保存する。
    - ・株主総会議事録
    - ・取締役会議事録
    - ・執行役員会議議事録
    - ・取締役を最終決裁者とする決裁書
    - ・税務署その他官庁、証券取引所に提出した書類の写し
    - ・その他文書管理規程に定める文書
  - ② 前項各号に定める文書の保存期間は10年間とする。
  - ③ 取締役及び監査役は常時これらの文書を閲覧できるものとする。
- (3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
  - ① 当社は、倫理規範、EMS規程、災害対策規程、品質保証規程、情報セキュリティ規程等の損失のリスク管理に関する諸規程を整備し、各主管部署が全社員への周知・徹底・教育を行うことで全員参加によるリスク管理及び対応を図っている。
  - ② 緊急かつ重大な不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする対策本部を設置し迅速な対応を行うとともに損害の拡大を防止する体制を整える。
- (4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
  - ① 定例の取締役会にて、会社全体の経営方針の決定を行い、また取締役の業務執行を監督する。
  - ② 個々の機能組織の業務執行は中期経営計画及び単年度計画に基づき執行役員が担当する。
  - ③ 取締役、常勤監査役及び執行役員で構成される常務会にて全社経営方針に基づく中期経営計画を立案し、また中期経営計画を具体化した単年度計画を立案する。

- ④ 取締役、常勤監査役及び執行役員で構成される執行役員会議にて業務執行上の方針決定を行い、また執行役員の業務執行を監督する。
  - ⑤ 各機能組織が自部門の経営状況を評価できる手法を取り入れ、担当執行役員の方針のもとで自主自立的な事業活動を促す管理体制をとる。
  - ⑥ 代表取締役社長、担当執行役員及び部門リーダーで構成する「P & B 会議」にて全社方針に基づく各部門の事業活動の成果が報告され、経営者からの指示が伝えられる。
- (5) 会社ならびに親会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- ① 当社は(株)ミツバの情報処理関連事業を担う連結子会社として、業容の定期的な報告を行い、かつ、重要な経営施策に関する事前協議を行う。
  - ② 当社子会社及び関連会社のガバナンスについては、グループ方針に則り必要とされる諸施策を立案し実行する。
- (6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
- ① 監査役の職務を補助すべき使用人については、必要に応じて監査役の業務を補助する使用人を置くこととする。
  - ② 使用人の選任については、取締役と監査役の協議によって決めるものとする。
- (7) 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項
- ① 監査役より監査業務に必要な命令を受けた使用人は、その命令に対して取締役、業務執行ライン及び内部監査部門からの指揮命令を受けないものとする。
  - ② その使用人の人事考課は、常勤監査役が行うものとする。
- (8) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
- 取締役または使用人は、法定の事実に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項、ホットラインによる通報状況及び内容、内部監査の実施状況、その他監査役会が報告すべきものを定めた事項が生じたときは、監査役会に報告する。
- (9) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- ① 取締役及び使用人の監査役監査に対する理解を深め、監査役監査の環境を整備するよう努める。
  - ② 代表取締役社長及び監査法人それぞれとの間で定期的に意見交換会を開催し、適切な意思疎通及び効果的な監査業務遂行を図る。

## 7. 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、事業収益やキャッシュ・フローの状況を勘案し、経営基盤の強化と、企業価値向上に向けた中長期的投資などを考慮しつつ、総合的判断により、適正な株主配当に努めてまいります。

平成23年度の配当金につきましては、当期の利益状況を鑑み、まことに遺憾ながら無配といたしました。

# 連結貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	5,933,579	流動負債	2,339,989
現金及び預金	796,685	買掛金	669,929
受取手形及び売掛金	2,000,424	リース債務	288,396
リース投資資産	782,202	未払法人税等	13,331
有価証券	200,139	賞与引当金	298,709
たな卸資産	784,096	受注損失引当金	315,518
繰延税金資産	642,327	その他	754,103
その他	728,407	固定負債	1,473,235
貸倒引当金	△702	長期借入金	813,800
固定資産	3,822,922	リース債務	651,360
有形固定資産	952,392	その他	8,074
建物及び構築物	686,732	負債合計	3,813,225
車両運搬具	849	(純資産の部)	
工具、器具及び備品	109,287	株主資本	5,912,758
土地	61,882	資本金	1,966,900
リース資産	91,101	資本剰余金	2,453,650
建設仮勘定	2,538	利益剰余金	1,500,721
無形固定資産	1,229,857	自己株式	△8,513
ソフトウェア	1,006,710	その他の包括利益累計額	△14,571
その他	223,146	その他有価証券評価差額金	△14,571
投資その他の資産	1,640,673	少数株主持分	45,090
投資有価証券	407,890	純資産合計	5,943,277
長期前払費用	735,005	負債純資産合計	9,756,502
繰延税金資産	375,840		
その他	121,937		
資産合計	9,756,502		

# 連結損益計算書

(平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
売上高		9,669,178
売上原価		8,602,429
売上総利益		1,066,749
販売費及び一般管理費		1,701,116
営業損失		634,367
営業外収益		
受取利息	9,789	
受取配当金	7,573	
受取賃貸料	11,724	
雑収入	20,249	
その他	12,117	61,454
営業外費用		
支払利息	6,588	
有価証券売却損	4,416	
賃貸収入原価	4,639	
その他	36,772	52,417
経常損失		625,329
特別利益		
固定資産売却益	139	139
特別損失		
固定資産除却損	8,282	
減損損失	2,055,081	
特別退職金	23,910	
その他	185	2,087,459
税金等調整前当期純損失		2,712,649
法人税、住民税及び事業税		7,565
法人税等調整額		△1,049,245
少数株主損益調整前当期純損失		1,670,969
少数株主損失		2,140
当期純損失		1,668,829



## 連結株主資本等変動計算書

(平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自 己 株 式	株主資本合計
平成23年4月1日 期首残高	1,966,900	2,453,650	3,161,500	△8,513	7,573,536
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△41,987		△41,987
当期純利益			△1,668,829		△1,668,829
連結範囲の変動			50,038		50,038
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	-	-	△1,660,778	-	△1,660,778
平成24年3月31日 期末残高	1,966,900	2,453,650	1,500,721	△8,513	5,912,758

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	その他の包括利益累計額合計		
平成23年4月1日 期首残高	△12,624	△12,624	48,656	7,609,568
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当				△41,987
当期純利益				△1,668,829
連結範囲の変動				50,038
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△1,946	△1,946	△3,565	△5,512
連結会計年度中の変動額合計	△1,946	△1,946	△3,565	△1,666,290
平成24年3月31日 期末残高	△14,571	△14,571	45,090	5,943,277

# 貸借対照表

(平成24年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>5,677,840</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,231,611</b>
現金及び預金	719,636	買掛金	748,154
受取手形	13,761	1年内返済予定の長期借入金	186,200
売掛金	1,880,509	リース債務	240,061
リース投資資産	749,182	未払金	204,845
有価証券	200,139	未払費用	53,729
原材料及び貯蔵品	5,647	未払法人税等	12,559
仕掛品	779,632	未払消費税等	59,520
前払費用	20,828	前受金	82,286
繰延税金資産	615,350	預り金	27,697
預け金	401,144	前受収益	49,162
未収入金	245,963	賞与引当金	251,876
その他の他	46,046	受注損失引当金	315,518
貸倒引当金	△0	<b>固定負債</b>	<b>1,346,410</b>
<b>固定資産</b>	<b>3,692,919</b>	長期借入金	813,800
<b>有形固定資産</b>	<b>818,334</b>	リース債務	526,762
建物	663,932	その他の他	5,848
構築物	21,303	<b>負債合計</b>	<b>3,578,022</b>
車両運搬具	849	<b>(純資産の部)</b>	
工具、器具及び備品	58,887	<b>株主資本</b>	<b>5,807,309</b>
土地	61,882	資本金	1,966,900
リース資産	8,940	資本剰余金	2,453,650
建設仮勘定	2,538	資本準備金	2,453,650
<b>無形固定資産</b>	<b>1,138,639</b>	利益剰余金	1,395,272
借地権	144,127	利益準備金	63,000
ソフトウェア	973,428	その他利益剰余金	1,332,272
ソフトウェア仮勘定	4,882	別途積立金	2,170,000
その他の他	16,200	繰越利益剰余金	△837,727
<b>投資その他の資産</b>	<b>1,735,945</b>	<b>自己株式</b>	<b>△8,513</b>
投資有価証券	269,450	評価・換算差額等	△14,571
関係会社株式	243,802	その他有価証券評価差額金	△14,571
出資金	2,600	<b>純資産合計</b>	<b>5,792,737</b>
長期前払費用	729,187	<b>負債純資産合計</b>	<b>9,370,760</b>
繰延税金資産	375,018		
その他の他	115,886		
<b>資産合計</b>	<b>9,370,760</b>		

# 損 益 計 算 書

(平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額
売 上 高	8,857,328
売 上 原 価	7,958,607
売 上 総 利 益	898,721
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,545,606
営 業 損 失	646,885
営 業 外 収 益	
受 取 利 息	1,837
有 価 証 券 利 息	7,699
受 取 配 当 金	10,565
受 取 賃 貸 料	106,639
雑 収 入	16,413
そ の 他	11,366
営 業 外 費 用	
支 払 利 息	4,539
有 価 証 券 売 却 損	4,416
賃 貸 収 入 原 価	98,683
そ の 他	31,931
経 常 損 失	631,936
特 別 利 益	
特 別 損 失	
特 別 損 失	139
特 別 損 失	8,267
特 別 損 失	2,055,081
特 別 退 職 金	23,910
そ の 他	94
税 引 前 当 期 純 損 失	2,719,149
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	6,772
法 人 税 等 調 整 額	△1,048,769
当 期 純 損 失	1,677,153

# 株主資本等変動計算書

(平成23年4月1日から  
平成24年3月31日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本計	
		準備金	資 余 合	本 金 計	利 備	益 金	その他利益剰余金				利 余 合
						別 積 立 金	途 過 繰 越 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
平成23年4月1日 期首残高	1,966,900	2,453,650	2,453,650	63,000	2,170,000			881,413	3,114,413	△8,513	7,526,450
事業年度中の変動額											
剰余金の配当								△41,987	△41,987		△41,987
当期純利益								△1,677,153	△1,677,153		△1,677,153
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)											
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	—	—	△1,719,140	△1,719,140	—	△1,719,140
平成24年3月31日 期末残高	1,966,900	2,453,650	2,453,650	63,000	2,170,000			△837,727	1,395,272	△8,513	5,807,309

	評 価 ・ 換 算 差 額 等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
平成23年4月1日 期首残高	△12,624	△12,624	7,513,825
事業年度中の変動額			
剰余金の配当			△41,987
当期純利益			△1,677,153
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額(純額)	△1,946	△1,946	△1,946
事業年度中の変動額合計	△1,946	△1,946	△1,721,087
平成24年3月31日 期末残高	△14,571	△14,571	5,792,737

## 連結計算書類に係る会計監査報告

### 独立監査人の監査報告書

平成24年4月24日

株式会社 両毛システムズ

取締役会 御中

#### 新宿監査法人

指定社員 公認会計士 田中 信行 ㊞  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 壬生 米秋 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社両毛システムズの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社両毛システムズ及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成24年4月24日

株式会社 両毛システムズ

取締役会 御中

### 新宿監査法人

指定社員 公認会計士 田中 信行 ㊞  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 壬生 米秋 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社両毛システムズの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第43期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

#### 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上



## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第43期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め意見を表明いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新宿監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新宿監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成24年4月24日

株式会社 両毛システムズ監査役会

常勤監査役 金井 孝一 (印)

社外監査役 星野 陽司 (印)

社外監査役 関子田 誠 (印)

以上

## 株主総会参考書類

### 第1号議案 取締役5名選任の件

取締役全員8名は、本定時株主総会終結の時をもって任期が満了となります。

つきましては、取締役5名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は、次のとおりであります。

#### 取締役候補者

候補者 番号	ふ り が な 氏 名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社 株式の数
1	ひ の のぼる 日 野 昇 (昭和12年11月27日生)	昭和63年6月 ㈱三ツ葉電機製作所(現㈱ミツ バ)代表取締役社長に就任 平成3年6月 当社取締役に就任 平成9年6月 ㈱サンフィールド・インターネッ ト取締役に就任 平成10年11月 ㈱両毛ビジネスサポート取締役に就任 平成11年6月 当社取締役会長に就任 平成12年1月 当社代表取締役会長兼社長に就任 平成12年6月 当社代表取締役会長に就任 平成14年1月 ㈱両毛データセンター取締役に就任 平成19年6月 ㈱ミツバ代表取締役会長に就任 現在に至る 平成21年7月 当社取締役会長に就任 現在に至る (重要な兼職の状況) ㈱ミツバ代表取締役会長	45,200株

候補者番号	ふりがな氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
2	あきやま つとむ 秋山 力 (昭和25年5月15日生)	<p>昭和50年4月 ㈱三ツ葉電機製作所(現㈱ミツバ)入社</p> <p>平成10年4月 同社開発支援室長</p> <p>平成14年4月 同社開発企画部長</p> <p>平成19年4月 同社情報システム室長</p> <p>平成20年4月 同社経営企画部長</p> <p>平成23年2月 当社入社 当社執行役員 現在に至る</p> <p>平成23年6月 当社代表取締役社長に就任 現在に至る ㈱両毛ビジネスサポート取締役に就任 現在に至る ㈱両毛データセンター取締役に就任 現在に至る</p> <p>平成24年4月 当社管理機能統括、コンプライアンス担当 現在に至る</p> <p>(重要な兼職の状況) ㈱両毛ビジネスサポート取締役 ㈱両毛データセンター取締役</p>	3,700株
3	おぎのけんじ 荻野研司 (昭和31年10月22日生)	<p>昭和52年3月 当社入社</p> <p>平成11年4月 当社ガス・水道システム部長</p> <p>平成13年7月 当社社会産業システム部長</p> <p>平成14年4月 当社社会産業営業部長</p> <p>平成15年4月 当社社会システム営業部長</p> <p>平成16年4月 当社事業企画推進室長</p> <p>平成17年4月 当社執行役員 現在に至る 当社事業推進室長</p> <p>平成18年6月 ㈱両毛ビジネスサポート取締役に就任</p> <p>平成20年3月 ファイブ・スター・ソリューションズ・ベトナム・リミテッド取締役に就任</p> <p>平成20年4月 当社グローバルソリューション事業部長</p> <p>平成21年4月 当社公共事業部長</p> <p>平成21年6月 ㈱両毛データセンター取締役に就任</p> <p>平成23年6月 当社取締役に就任 現在に至る</p> <p>平成24年4月 当社公共事業本部長 現在に至る</p>	5,900株

候補者番号	ふりがな氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位、担当 (重要な兼職の状況)	所有する当社株式の数
4	きたざわなおき 北澤直来 (昭和33年2月1日生)	<p>昭和57年4月 当社入社</p> <p>平成16年4月 当社社会営業部長</p> <p>平成20年4月 当社社会ソリューション部長</p> <p>平成21年3月 ファイブ・スター・ソリューションズ・ベトナム・リミテッド取締役に就任</p> <p>平成21年4月 当社執行役員 現在に至る 当社ガス事業部長</p> <p>平成21年6月 (株)両毛データセンター取締役に就任 現在に至る</p> <p>平成23年6月 当社取締役に就任 現在に至る ファイブ・スター・ソリューションズ・ベトナム・リミテッド代表取締役会長に就任 現在に至る</p> <p>平成24年4月 当社社会・産業事業本部長 現在に至る</p> <p>(重要な兼職の状況) (株)両毛データセンター取締役 ファイブ・スター・ソリューションズ・ベトナム・リミテッド代表取締役会長</p>	3,500株
5	あくとお 阿久戸庸夫 (昭和19年9月13日生)	<p>平成6年6月 (株)三ツ葉電機製作所(現(株)ミツバ)取締役に就任</p> <p>平成9年6月 同社常務取締役に就任</p> <p>平成14年6月 同社専務取締役に就任</p> <p>平成15年6月 当社取締役に就任 現在に至る (株)ミツバ代表取締役専務に就任</p> <p>平成18年6月 同社代表取締役専務執行役員に就任</p> <p>平成19年6月 同社代表取締役社長に就任 現在に至る</p> <p>(重要な兼職の状況) (株)ミツバ代表取締役社長</p>	7,400株

- (注) 1. 候補者日野 昇及び阿久戸庸夫の両氏は、㈱ミツバの代表取締役であり、同社は当社に情報処理関係の業務委託を行っております。
2. その他の候補者と当社との間にはいずれも特別の利害関係はありません。
3. 候補者阿久戸庸夫氏は、社外取締役候補者であります。
4. 阿久戸庸夫氏を候補者とした理由は、企業経営の豊富な経験、知識を活かして親会社の立場から当社の経営全般に対する監督、チェック機能を果たしていただくことで、当社の経営体制をさらに強化できるものと判断したものであります。
5. 候補者阿久戸庸夫氏は、現在、当社の社外取締役であります。社外取締役としての在任期間は、本定時株主総会の終結の時をもって9年となります。
6. 候補者阿久戸庸夫氏と当社との間で会社法第427条第1項の規定による責任限定契約を締結する予定はありません。

## 第2号議案 補欠監査役2名選任の件

法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役2名の選任をお願いしたいと存じます。

補欠監査役候補者は、次のとおりであり、上山和則氏は現監査役金井孝一氏の補欠としての候補者、武 信幸氏は社外監査役の補欠としての候補者であります。

なお、本議案の提出につきましては、監査役会の同意を得ております。また、候補者からは、監査役が任期中に退任し、法令に定める監査役の員数を欠く場合に、監査役に就任する旨の承諾を得ております。

### 補欠監査役候補者

候補者番号	ふりがな氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位 (重要な兼職の状況)	所有する 当社の株式数
1	かみ やま かず のり 上山和則 (昭和37年10月5日生)	昭和62年4月 当社入社 平成23年6月 当社管理統括部長、経営管理部長 現在に至る	0株
2	たけ のぶ めき 武 信 幸 (昭和32年5月8日生)	昭和56年4月 ㈱三ツ葉電機製作所(現㈱ミツバ)入社 平成19年4月 同社総務部長 平成22年4月 同社経理部長 現在に至る 平成23年4月 同社執行役員 現在に至る	0株

- (注) 1. 各候補者と当社との間にはいずれも特別の利害関係はありません。
2. 武 信幸氏を社外監査役の候補者とした理由は、企業経営の豊富な経験、知識を活かして当社経営の監視をしていただくためであります。
3. 武 信幸氏が執行役員経理部長を務める㈱ミツバは当社の親会社であり、当社は同社より情報処理関係の業務委託を受けております。

以 上

# 株主総会会場ご案内図

会場 両毛システムズ 1階プレゼンテーションルーム  
(群馬県桐生市広沢町三丁目4025番地)

## ■お車をお使いの株主様

北関東自動車道「太田桐生IC」から約12km

「太田藪塚IC」から約7km

東北自動車道「佐野藤岡IC」から約32km

## ■電車をお使いの株主様

東武桐生線「新桐生駅」からタクシーで5分

「新桐生駅」から徒歩で15分

JR両毛線「岩宿駅」からタクシーで約10分

「桐生駅」からタクシーで約15分

